

阿弥陀仏のいのちと同じいのちが私です

親鸞聖人の書かれた現世利益和讃げんぜりやくわさんという十五首の歌があります。十五首目に「南無阿弥陀仏を唱えると、十方無量の諸仏が、百重千重取り囲み喜んで護って下さいます」とあります。

阿弥陀仏は私達を阿弥陀仏と同じ覚りを開かせようとはたらいしています。私が覚ると人間としての生命体に変化するように思いがちですが、救う対象物は私のいのちです。命も心も生物学や細胞学で調べても見つかりません。これが私のいのちだという物質は目に見えませんが、確かに存在しています。

そのいのちが、なもあみだぶつを唱えることによって阿弥陀仏と同じ命になって、弥勒菩薩と同じ生き方をしているのです。

弥勒菩薩は次、生まれ変わって弥勒仏になると言われています。それと同じで、「私もこの世の縁が尽きて生まれ変われば阿弥陀仏になる」と親鸞聖人は言われています。

世間では、「私は救われない」とか、「仏陀になれない」とか言う人がおられますが、それはすがたやかたち、おこないにとらわれているからそう思うのですが、人間のいのちも地獄の亡者のいのちも阿弥陀仏のいのちもすべて平等に見える世界がさどりの領域なのです。私達はなもあみだぶつのはたらきで、今救われて今阿弥陀仏のいのちと一つになっているのを、諸仏が取り囲んで喜んでいるのです。今年是有名俳優が亡くなりましたが、その人のすがたかたちは無くなりましたが、いのちは死なずに次の世界に行かれたのです。いのちは死なないということがわかれば、娑婆の縁尽きる寂しさはありますが、死んだらどうしようという未来の不安は消えるのです。

生まれ変わって今度は阿弥陀仏と同じ覚りを開いて人々を救うという新しい仕事が待っているのです。合掌

写真は一瀬、高野川

